

はじめに

立命館大学歴史都市防災研究所は、文化遺産の宝庫とも言うべき京都・滋賀を拠点として、芸術と文化の保全と、それを支える環境とコミュニティを含めた災害対策とを、一体の物として捉える「文化遺産防災学」の教育・研究を推進しています。2003年の歴史都市防災研究センター設立以降、文部科学省21世紀COEプログラム、同グローバルCOEプログラム等の外部資金を積極的に獲得しながら、研究活動を行ってきました。ユネスコより当時のセンターにユネスコ・チェアが設置されるなど文化遺産の防災に関わる国際研修事業も継続して実施しており、国際的な文化遺産防災学のネットワーク・ハブとしての役割も果たしてきました。

歴史都市防災研究所では、これまでの実績を基盤にさらなる発展を図ることで、文化的で安全な社会の発展に貢献するための方策を国内外に提供できる、教育研究のための拠点形成を目指しています。

地域に根ざした文化遺産とこれを取り巻く歴史都市は、貴重な社会的共通資本です。それは長い時間をかけて醸成されてきた人々の文化的活動の結晶であり、ひとたび失うと二度と再生はできません。この文化的価値を維持しながら、災害の脅威から守り、次世代へと受け渡していくことは現代を生きる私たちの責務です。

文化遺産や歴史都市の持つオリジナリティを損なわずに、地域に根ざしたコミュニティや伝統、水や緑、環境などの地域資源を活かした減災に取り組むためには、減災を文化に高めるための新しい考え方が必要になります。このため文化遺産防災、あるいは歴史都市防災という研究テーマの下では、これまで別々に取り組まれてきた人文社会学と理工学を融合して取り組むことが必要になります。さらに、アーカイブ等の情報技術を駆使する立命館大学アート・リサーチセンターとも連携しつつ、国内外の人材と研究プロジェクトが集うプラットフォームを構築しています。

引き続き、地域社会を始めとした産官学との連携や、NPO/NGO、そして国際機関とも連携して、「文化遺産防災学」の発展、文化的価値を継承する歴史と伝統の研究、実践的な防災技術の獲得、即戦力となる実務家と研究発展を担う若手研究者の輩出に取り組むとともに、当該分野の国際的な中心拠点として、社会貢献へ向けた機能を発揮できる教育研究環境を確立していく所存です。皆様方のご支援、ご協力を賜りますよう、心よりお願いを申し上げます。

立命館大学 歴史都市防災研究所 所長 大窪健之